

1-G3-B 妊娠・産褥マウスの脂肪組織におけるアディポネクチン遺伝子の発現について

三重大学医学部産科婦人科

近藤 英司, 杉山 隆, 日下 秀人, 豊田 長康

【目的】妊娠末期においてインスリン抵抗性が増大することは知られているが、その詳細な機序については未だ明らかではない。今回我々は妊娠マウスの脂肪組織におけるアディポネクチン遺伝子の発現を検討した。【方法】ICRマウスを用いて妊娠5, 10, 15, 18日で腹腔内脂肪を採取し、その一部よりAGPC法によりtotal RNAを抽出し、RNase protection assay (RPA) 法にてアディポネクチンのmRNA量を定量し、血清値、腹腔内脂肪細胞の形態を検討した。【成績】妊娠時では、妊娠後半期に、本遺伝子発現及び血清値は有意に低下し、脂肪細胞の肥大化を認めた。【結論】妊娠末期におけるインスリン抵抗性の原因の一つとして腹腔内脂肪組織のアディポネクチン遺伝子の発現が関与している可能性が示唆された。